

〔敬称略〕

ご結婚おめでとうございます

 氏
 名
 住
 所

 坂
 本
 一
 志
 本町区

 (
 滝
 上
 由
 任
 本町区

おくやみ申し上げます

氏		名		性別 年齢		死亡年月日		喪主		行政区		
高	田	光	子	女	70	R 5.	4. 15	偱		錦	町	X
白	石	順		男	55	R 5.	4. 19	真知子		あた)ねE	IJΣ
橘	内	利	子	女	79	R 5.	4. 21	繁		錦	町	$\overline{\times}$
松	本	_	子	女	90	R 5.	4. 24	梅	吉	曙	町	$\overline{\times}$
見	$\frac{1}{\sqrt{2}}$	≅∃	1	女	98	R 5.	4. 26	正	成	銀	座	X
永	岡	幸	子	女	87	R 5.	4. 26	古澤	美幸	錦	町	X
Щ		恵美子		女	69	R 5.	4. 26	_	男	曙	町	$\overline{\times}$
藤	原	保	英	男	76	R 5.	5. 2	萩原	英一	銀	座	$\overline{\times}$
橋	本	惠	司	男	69	R 5.	5. 3	敦	子	本	町	$\overline{\times}$
中	Щ	達	雄	男	90	R 5.	5. 5	竹	子	1	8	X
黒	Ш	花	江	女	91	R 5.	5. 6	通	子	中	央	$\overline{\times}$
Щ	田	千代子		女	92	R 5.	5. 8	宏	昭	1	5	$\overline{\times}$
髙	栁		直	男	93	R 5.	5. 13	Ė	臣	2	9	X

ご寄附ありがとうございます

■社会福祉協議会へ

《香典返しにかえて》

氏名 行政区 ご寄附の内容清水 晃 ー 栄町区 母 (利子)の死去に際して白 石 真知子 あかね町区 夫 (順)の死去に際して山 ロー 男 曙町区 妻 (恵美子)の死去に際して萩原 英ー 江別市 義兄 (藤原保英)の死去に際して黒川通子中央区 母 (花江)の死去に際して橋本教子 本町区 夫 (惠司)の死去に際して山田宏昭15区母(千代子)の死去に際して中山竹子18区夫(達雄)の死去に際して

■長沼町へ

《ふるさと長沼応援寄附》

▼申込み件数…811件

▼寄附金額……10,033,000円(4月1日~30日受付分)

*返礼品協賛事業者 随時募集中!

【問合先】役場ブランド戦略係(☎76-8016)

*個人情報の適切な取扱いのため、承諾を得た方のみ掲載 (5月15日受付分まで)

4月中に本町で発生した交通事故件数は次のとおりです。

事故件数 29件(人身事故 4件) 死者 0人 傷者 5人

(長沼町死亡事故ゼロ記録 4月30日現在) 令和5年1月25日以降 96日間



今月は、町道民税の納期です!

納期限 6月30日金

☆納税は便利な口座振替で☆

口座振替をご利用の方は、6月30日金に引き落としされます。前日までに通帳の残高確認をお願いします。



タンチョウ博士のお話(第32回)

タンチョウは舞鶴遊水地にいつから住みついたのか?

むかし、むかし、長沼一帯にたくさんのツルが住んでいました……。

と言っても、この昔ばなしは絵空事や創作物語ではありません。実際にあったお話です。それに、「むかし、むかし」とは言え、せいぜい100年をいくらか越した程度です。おそらく100歳を超える方も町内におられるでしょうから、その方々には、前世紀のことながら今とつながりをもつ現実的なお話と言えるでしょう。

ともかく、この昔ばなしは「……いました」と過去形で語られ、ツルはその後長沼町一帯からいなくなったことを示しています。

しかし、ご存知のように、今世紀になるとツル、つまりタンチョウは再び長沼町へ現われるようになりました。2010年代のことです。特に、2014年からは毎年1羽か2羽が目撃されています。例えば2016年には、おとな(3歳以上の成鳥)と若い鳥(亜成鳥)の2羽組が、ところどころに雪の残る舞鶴遊水地で、愉快そうにダンスをしているのが3月半ばに記録されました。

翌2017年は1羽しか目撃されませんでしたが、2018年にまた2羽が現れました。今度は亜成鳥と、前年生まれの幼鳥との2羽連れで、2016年に現れた2羽組とは異なる組合せでした。

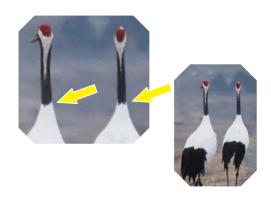
つまり、もしこれが2016年に現れた組とすると、2018年にはすでに両方とも成鳥になっているはずですから違いは明白です。

では、2018年の2羽組はその後どうしたでしょうか。齢上の亜成鳥は遊水地内で換羽後に足を悪くしたりしましたがそれも治り、遊水地やその周辺の農地、さらに舞鶴地区の南にある長都沼などを経て、11月に2羽は姿を消しました。ところが、1羽のタンチョウが遊水地内に残る凍らない水辺にねぐらを構え、越冬したのです。しかしこれも、318と読める足輪がついていて、2羽組のメンバーと違うことがはっきりしています。

さて、翌2019年春、再び2羽のツルが舞鶴地区に現れました。この2羽が前年現れたのと同じかどうか、写真による綿密なボディチェックを行い、同じ組と見て差し支えないと判定されました。判定の手がかりとした体の特徴のひとつ (写真) を示しておきましょう。

その後のチェック作業により、今年の番いも2018年の2

舞鶴の番いの個体を見分ける手がかり(1例)



右がメス、左がオスですが、どこが違うか お分かりですか?

一頸の黒い模様の下端を見比べてください。 ※この違いは性別を現すものではありません。

撮影:赤間

羽組と見られています。しかし、個人特有の"人相"のほか判別の手掛かりが多いヒトですら、「そっくりさん」が居ますから、"本人"を証明するもの(免許証とかパスポートなど)が必要です。ましてや"ツル相"(?)の単純なタンチョウでは、"本ツル"(?)証明はさらに難しくなります。

現在は個体識別のため足輪をはめ、それにより寿命を始め、生活状況や社会組織などが少しずつ明らかになっています。ただ、タンチョウは夏に草むらで暮らすため、足輪が草に隠れて見えないことも多いのです。そこで、いったんツルを捕まえ、家畜やイヌ・ネコなみにマイクロチップでも埋め込むとよいかもしれません。でもそれには、チップの記号を遠くから読み取る方法を開発する必要がありますし、それよりもタンチョウからは、無理やり捕まえられ、しかも"個ツル"(?)情報の盗用にあたると抗議がくるかも…。(文:正富宏之)

【問合先】役場企画政策係(☎76-8015)

27 2023 - ⑥ - 広報ながぬま 26